

<2009>

- 近況報告(志士の会 40周年記念誌)

有難いこと。今回も“特別待遇”の優しいご案内の声が届いた。心は大いに傾いたがここは謹慎。かわりに一葉のプリントを中西幹事にお預けする。幾人かの方には以前お渡しした憶えもあるが、22年前の筆とはいえ時を経て胸に迫る。お目通し頂ければ幸い。

### 家族と暮らし：

歩いて5分の距離を置いて家族と離れ、独居自炊自給の暮らしも7年。これ以上小生の“ヤセ我慢”ライフワーク(持続可能社会への道筋をつけること)に付き合わせるの忍び難い、と。

上の娘は自宅通勤看護師5年。下の娘はアルバイトに奨学金の理学部学生4年目のアパート住まい。妻は干局のパートのかたわら娘の新聞配達を引き継いだ上での自給農事。小生は「家があって、食事がとれて、学べるだけでも幸せだ」とニベもない。そもそも自給農事をベースに社会活動がてら通信教育を受けつつ自学自習を共にして欲しかった小生なのだ。それに資する書籍(人間は何をしてきたか、今何をしているか、わかってきたことは何か、未だわからないことは何か、具体的にどうしたら良いのか)の検討がつく程に。過半は古書購入と頂きものながら定価で積算すれば一千万円をはるかに越えよう。現在、昔の村役場建屋に図書館として整理中)も手元に揃えてきたのだった。いずれのせよ妻の言葉「子供の学資工面と世話は私がします。あなたの世話は何もしません」…小生の妻に相応しい。婚歴20年を過ぎたところで、妻と娘が居住する家と土地(その周りの自給用田畑山林は非課税枠の範囲内で順次贈与済)を生前贈与、住所も変えて世帯も別にしたから家計も別建。小生名義の家産(この間山林は等価交換で増えて200ha余りとなった)は小生の意志を継承する公的な“器”に託せるように備えた。65歳の国民年金受給(過半は租税公課などに充てられる)までは納税財源の目処もたち(公共道路用地補償金収受)、現在の収入は新日鉄3年余時代の厚生年金月額5,975円、それに

自給分を越える不耕起無農薬栽培のお米が 500 円/kgでお金にかわり、これが年に 5 万円程、合わせて年間 12 万円、月にならせば 1 万円。中井式西南暖地日本型 1 日1弗未満暮らし(月の食費千円以内、光熱水費は電気代600円前後:木炭+風呂カマドからとる消し炭で筋はほとんど七輪で。水は井戸からポンプアップ)に程良く釣合う。町議のオットメ(存分に疲労)は合併天草市誕生までの2年余で終え、その間の報酬は10年分の書籍、情報・通信財源としてストック。年に20万円は使えるも新聞、TV受信、電話代で過半を越える。“足”は娘が看護学校時の通学に用いていたスクーター。車が必要な時は妻の軽自を実費で借用。不時の折の予備費は厳格管理。冠婚祭は遠慮して葬は心ばかりのお米をお供え…。

## ライフワーク：

金融バブルも弾け、マネー資本主義も猛省を迫られたとはいえ教訓の引き出し方は生ぬるい。小生の憂いは一層深刻だ。人々の視野の外では食糧バブルが進行中。大規模機械化単作農業。遺伝子組替作物導入で拍車がかかり巨大産地が広がるが、限りある水資源と気象変動に果たしてどこまで耐えられるか。これらのバブルは弾けたらこの世は地獄の確率 9 割 9 分。誰にも止められなかったでは済まされぬ。弾けたら破局、されど窮せずば通じない。窮した時に役立つよう還暦を過ぎたればこそその心身に磨きをかけんとする小生だが、10 年後にそのヤセ我慢を取越苦勞と笑い飛ばして貰えることを切に祈るばかり。

不一。